

中期計画
(2019～2021)

千里国際
中等部・高等部
責任者名: 井藤 真由美

各学校での承認
年月日 会議体名

【3年間の運営方針】	【3年後のありたい状態】
<p>1. 人材育成、教育の方針</p> <ol style="list-style-type: none"> 世界市民育成:「Informed, Caring, Creative Individuals Contributing to a Global Community」を育てる。世界人権宣言の趣旨に基づいた世界市民として、世界のどこかで貢献ができる(Mastery for Service)人物を育てる、キリスト教主義教育に通じる全人教育を実践する。 カリキュラム再編:Kwansei コンピテンシーに繋がる SIS Learning Compass に基づいてカリキュラムの再編を行う。6年間の学びのシーケンスを一層可視化する。SGH で培った探究スタイルを持続発展させる。(ポスト SGH プログラム) 6年一貫教育を強化:一般生は中学1年生からのみ受け入れる。(クロス推薦は高等部からも)(帰国生はどの学期からでも) バイリンガル環境:言語サポートの体制を強化し、日本語での学習経験が浅い帰国生徒を受け入れやすくする。 IBDP:2013年に SIS に在籍しながら OIS 生徒と共に IBDP を取得する制度を確立したが、日本語 IBDP 授業の導入には制度上の問題があり断念している。これを克服する方法を検討する。 STEM/STEAM/STREAM:理工学部との連携、及び、校内での理数系の教員の協働により、理数系プログラムを発展させる。 世界標準の教育:大学との連携により、国際的な学会、コンペティション、カンフェレンス等の参加の機会を増やし、高校在学中に世界標準のアウトプットの機会を持つ。 卒業後進路:関西学院大学への院内推薦率を上げ、10年一貫の教育を発展させる。同時に、海外大学への進学率も伸ばす。 	<ul style="list-style-type: none"> ● カリキュラム再編により、6年間の学びのシーケンスが向上し、一貫教育が実現 ● 自由選択制度の仕組みが安定することで高校生の学びの質が向上 ● 言語サポートの充実により、帰国生徒の率が伸びる ● より多くの IBDP 生徒育成 ● より多くの海外との連携、提携 ● 関西学院としてのアイデンティティが一層浸透し院内推薦の人数増加 ● 海外大学進学率増加 ● 国際教育実践のトップ校(老舗校)としての知名度を上げる
<p>2. 児童・生徒獲得の方針</p> <p>SISの生徒獲得は、海外へのアプローチと国内でのアプローチの二つの側面を有し、それぞれのニーズに応える戦略が必要である。帰国生徒率を上げるために、前者に一層力を入れると同時に、国内での知名度の向上を目指す。</p> <p>◎海外へのアプローチ:同窓会の協力を得ての独自説明会開催も引き続きの検討事項。メディアの活用、SNSの利用、ウェブの開発にも一層尽力する。</p> <p>◎国内でのアプローチ:2017年度より少しずつ進めてきた塾との交流を発展させる国内での情報発信メディアの再検討。</p>	<p>◎帰国生徒の率を上げる</p> <p>◎国内での知名度を上げる。関西学院の擁する「国際学校」の存在感を高める。</p>

3. 中期的な課題

- ◎カリキュラム再編の必要性
- ◎施設面の大規模改装、不具合解決
- ◎「国際教育」を謳う私立中高が増加する中で、SISの教育を高めることとその広報の必要性
- ◎帰国生徒への言語サポート体制
- ◎IBDPの日本語授業導入
- ◎同窓会の発展

【重点施策】	【中期総合経営計画 実施計画】として取り組むものに○
① 総合学園の「見える化」と関西学院アイデンティティの浸透	○
② 千里国際高等部生徒の本大学への進学率維持	○
③ 千里国際中等部・高等部の中高一貫教育校への転換検討	○
④ 施設の改善（含:ICT）	
⑤ 言語（日本語）サポート体制の確立	
⑥ IBDP日本語授業導入（再度）検討	
⑦ 海外大学進学者増	
⑧ 受験者増のための広報一般	

【3年間の取り組み状況（中期計画）を測る指標】

①スクールモットーの認知度・共感度、②大学への内部進学率、③高校生の授業への満足度向上、④ICT環境への満足度、⑤言語サポート、⑥海外大学進学者、⑦受験者数

【目標や実績を踏まえた次年度に向けた展望】（2019年10月時点）

中等部の入試は前年度に続いて日曜日（解禁の翌日）の実施とすることで受験生は安定して増加。また海外駐在家庭への継続したアプローチにより帰国生の受験生も増加する。言語サポートの体制を強化することで、一層多彩な背景の帰国生を擁し、校内の多様性が増す。OISとの協働活動も増加し、国際色をさらに強める。

5年間のSGH指定の終了後、ポストSGHとして設定した高等部の総合探究授業が教科横断型として実現する。そこから6年間の総合探究のシーケンスを整え、さらに高等部で2022年度から実施予定の新しいカリキュラムの構築に向けて整備する。同時にIBDPの新たな展開についても再検討が始まる。

関西学院の理念が一層浸透し内部進学での大学進学者が増えるが、同時に海外の大学への進学者も増加する。

ICT環境を含めたキャンパスの大規模な施設改善の一段階目が動き出す。

以上